

仙台市衛生研究所

# 情報広場

— infosquare —

第42号 2017年3月



\* 仙台市衛生研究所ホームページ:

<http://www.city.sendai.jp/bisebutsu/kurashi/kenkotofukushi/kenkoiryo/ese/index.html>

## 今回は 2016 年における仙台市の 感染症発生状況についての速報です

仙台市衛生研究所では、医療機関から保健所を通して報告のあった感染症情報のとりまとめを行い、週 1 回（対象疾患によっては月 1 回）、**仙台市感染症発生動向調査情報** としてウェブサイトなどで公開しています。

**感染症発生動向調査** とは、感染症の予防とまん延防止に役立てるため、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下、感染症法）に基づき、定められた感染症について、診断した医師からの報告をもとに、感染症の発生状況を調査し、分析・公表するものです。

今回は 2016 年における仙台市の感染症発生状況についてまとめました。なお、本データは速報値です。追加報告等により修正される可能性があります。



## 2016 年の感染症関連トピックス

### ジカウイルス

2015 年（平成 27 年）5 月以降、ブラジルをはじめとする中南米地域において多数の患者が発生し、妊婦が感染すると、胎児に小頭症などの先天性障害が生じる可能性が指摘されました。ウイルスを媒介するヒトスジシマカは国内各地に生息しており、国内で感染者が出る可能性も踏まえ、**2016 年（平成 28 年）2 月 15 日からジカウイルス感染症が四類感染症に追加**となりました。



### 感染症に関する情報の収集体制の強化

2014 年（平成 26 年）に感染症法が改正され、病原体の検査に関する明確な規定が設けられました。これにより、**2016 年（平成 28 年）4 月 1 日から感染症に対する情報収集体制が強化**されることとなり、特にインフルエンザは、指定された医療機関での患者からの検体収集が定期的に行われています。



### 麻しん（はしか）

2015 年（平成 27 年）3 月に、世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本が麻しんの排除状態にあることが認定されましたが、その後も海外からの輸入例による散发事例や集団発生事例が発生しています。2016 年（平成 28 年）8 月には、関西国際空港の利用日やウイルス遺伝子型が共通する事例が報告されました。



感染症法では、報告の対象となる感染症を感染力や罹患した場合の重篤性等により一類～五類、新型インフルエンザ等感染症に類型化し、診断した医師に届出を行うよう規定しています。

一～四類感染症、五類感染症の一部、新型インフルエンザ等感染症は**全数報告対象感染症**<sup>※1</sup>に分類されており、それ以外の五類感染症は**定点報告対象感染症**<sup>※2</sup>に分類されています。

## 1. 全数報告対象感染症

2016年に診断・報告された全数報告対象感染症を表1にまとめました。

表1 2016年全数報告対象感染症発生状況(仙台市)

類	疾病名	報告数	推定感染地域
二類	結核	224	国内212例, 国内/中国1例, 国内/カナダ1例, 中国1例, 国内/国外(渡航先不明)2例, ネパール2例, フィリピン1例, インドネシア1例, バーレーン1例, 国外(渡航先不明)2例
三類	細菌性赤痢	1	ガーナ1例
	腸管出血性大腸菌感染症	33	国内30例, 国内/アメリカ合衆国1例, 大韓民国1例, イギリス/フランス1例
四類	E型肝炎	5	国内5例
	A型肝炎	2	国内2例
	つつが虫病	1	国内1例
	デング熱	4	フィリピン2例, ベトナム1例, インドネシア1例
	マラリア	1	ウガンダ1例
	レジオネラ症	16	国内15例, マレーシア1例
五類	アメーバ赤痢	16	国内16例
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	3	国内3例
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	15	国内15例
	急性脳炎	2	国内2例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	4	(届出事項対象外)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	8	国内8例
	後天性免疫不全症候群	12	国内10例, 不明2例
	ジアルジア症	1	国内1例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2	国内2例
	侵襲性肺炎球菌感染症	23	国内23例
	梅毒	24	国内24例
	播種性クリプトコックス症	4	国内4例
	破傷風	1	国内1例
	風しん	1	国内1例
	麻しん	0	



※1 全数報告対象感染症: 診断したすべての医師に報告が義務づけられている感染症。  
 ※2 定点報告対象感染症: あらかじめ定点として指定された医療機関に報告が義務づけられている感染症。決められた期間中(1週間または1ヶ月)に診断された患者数を報告する。

- ◇ **結核**が増加し、感染症法に基づく届出対象となった2007年4月1日以降、最多の報告数。(図1)
- ◇ **性的接触**が感染原因として疑われるものは、42件(アメーバ赤痢 6件, ウイルス性肝炎 3件, 後天性免疫不全症候群 11件, 梅毒 22件)。
- ◇ **経口感染**が疑われるものは、17件(細菌性赤痢 1件, 腸管出血性大腸菌感染症 12件, E型肝炎 3件, ジアルジア症 1件)。
- ◇ **動物・蚊・昆虫等からの感染**が疑われるものは、7件(腸管出血性大腸菌感染症 1件, つつが虫病 1件, デング熱 4件, マラリア 1件)。



図1 結核の報告数推移(仙台市)

## 2. 定点報告対象感染症

2016年に診断・報告された定点報告対象感染症について主なものを以下にまとめました。

### 【2016年 仙台市内定点医療機関の内訳】

小児科定点	27
インフルエンザ定点	44 (内科定点17及び小児科定点27)
眼科定点	6
性感染症定点	8 (産婦人科, 婦人科, 泌尿器科, 皮膚科等)
基幹定点	5 (病床数300人以上の小児科, 内科, 外科を含む病院)

### (1) 週報告対象感染症

\* 縦軸: 定点当たり報告数, 横軸: 診断週

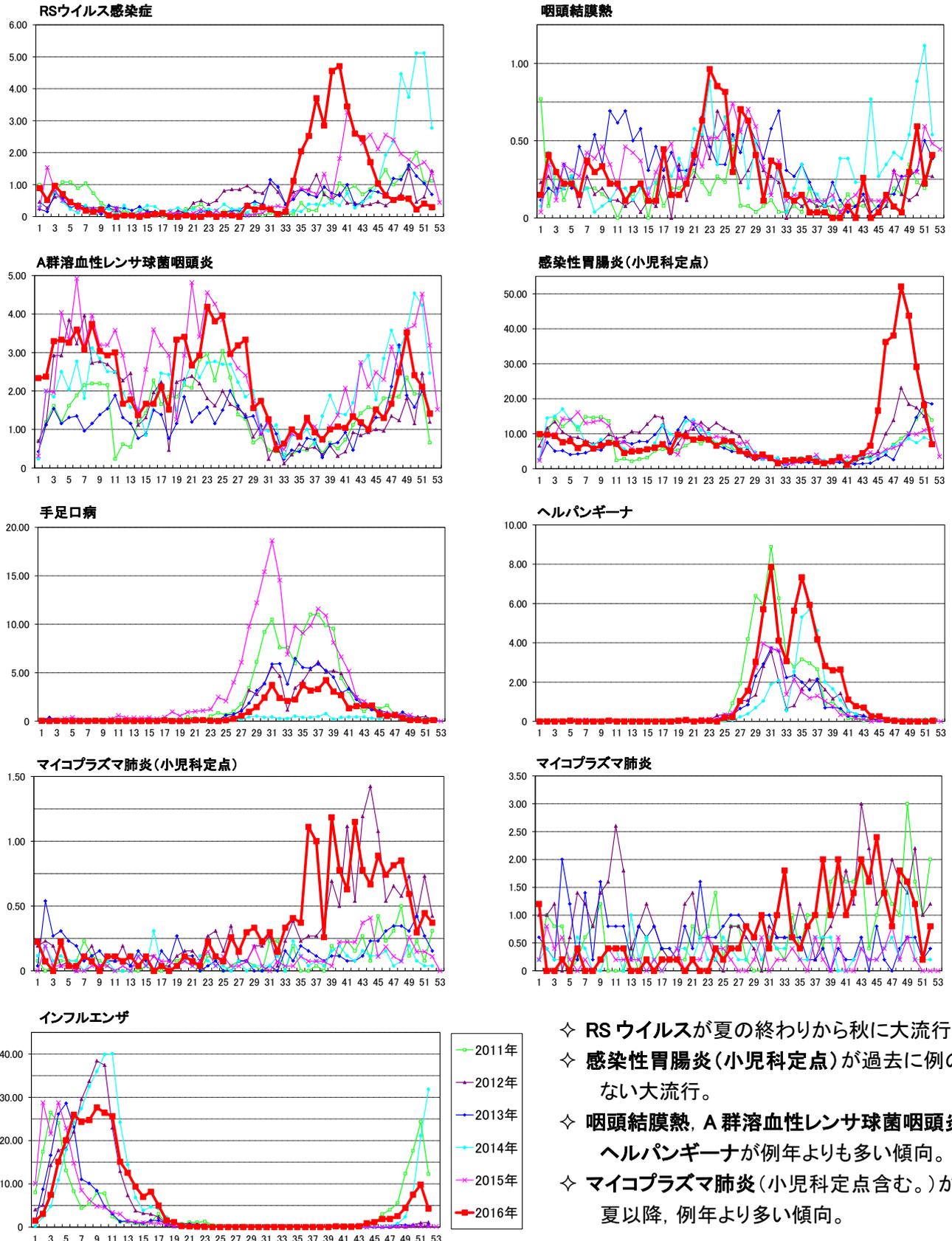


図2 主な週報告対象感染症の発生状況(仙台市, 2011~2016年)

(2) 月報告対象感染症

\* 縦軸:報告数(人), 横軸:年齢

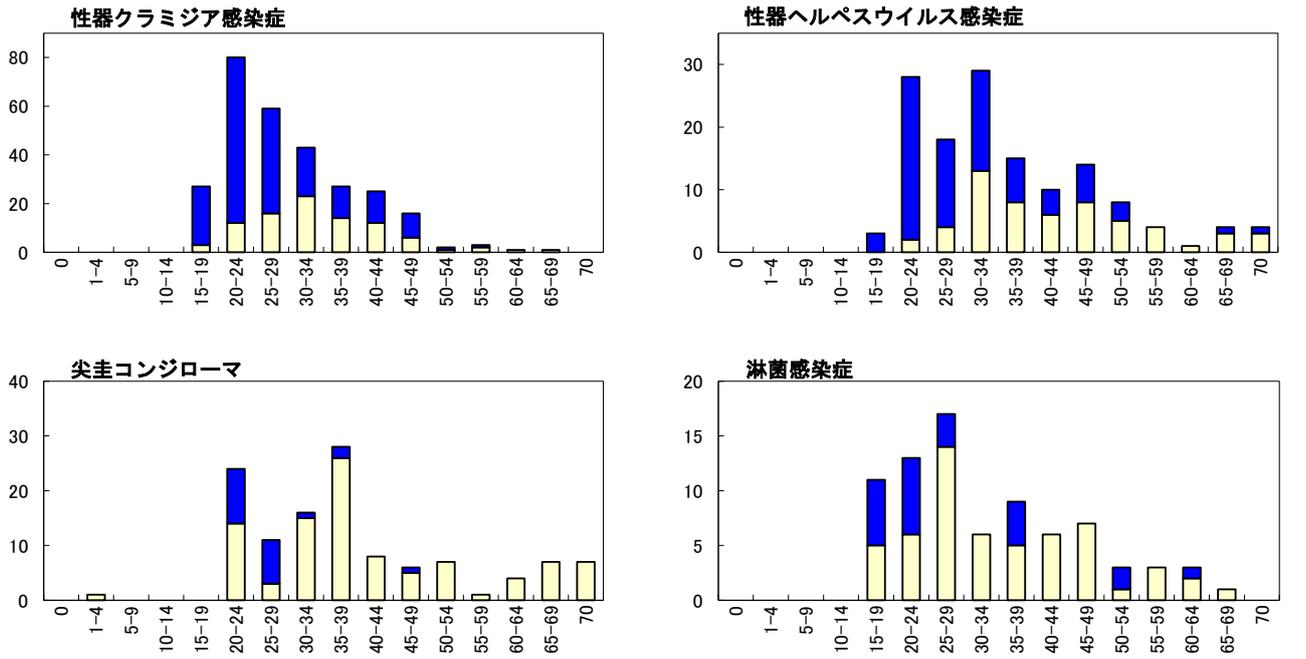


図3 主な月報告対象性感染症の年齢階級別報告数(仙台市, 2016年)

男 □ 女 ■

- ◇ 4つの感染症とも, 20~30代の年齢層が多い傾向。
- ◇ 性器クラミジア感染症及び性器ヘルペスウイルス感染症は, 20代女性が多い傾向。

3. 病原体情報の収集

仙台市衛生研究所では, 市内の医療機関(感染症法に基づくインフルエンザ病原体の指定提出機関や, 感染症発生動向調査事業による病原体定点)にて採取された検体の検査を実施し, その結果を国立感染症研究所に報告しています。

インフルエンザについては, 2016年は154検体の提供があり, うち137検体からインフルエンザウイルスが分離・同定されました。2015/16シーズン(第35週:2016年9月4日まで)はAH1pdm09型が多数を占め, 2016/17シーズン(第36週:2016年9月5日から)はA香港(H3)型がやや多く見られました。

なお, 分離したインフルエンザウイルスについては, 抗原性状の変化や抗インフルエンザ薬として広く使われているオセルタミビル耐性の指標となる遺伝子の検索が行われ, また, 感染症の流行状況の把握やインフルエンザワクチンの株選定の際の参考情報として活用されています。

\* 縦軸:検出数, 横軸:医療機関での採取週

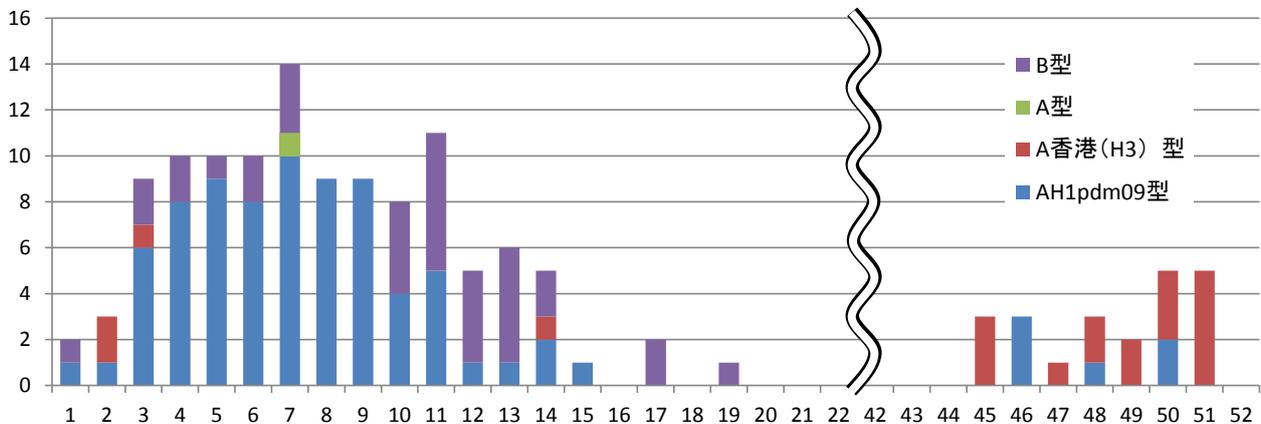


図4 インフルエンザウイルス検出状況(仙台市, 2016年)

